

■第76回 河川レンジャー制度運営委員会（2025. 10. 30）議事録

◆出席：中谷委員、北井委員、平山委員、佐々木委員、加藤委員、柴山委員

（太字：決定事項, R印：河川レンジャー, △印：事務局, ○印：一般傍聴者）

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
1. 開会	△奥野	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本日は、ご多忙中、河川レンジャー制度運営委員会にご出席を賜り、厚くお礼を申し上げます。定刻となりましたので、第76回河川レンジャー制度運営委員会をこれから開催したいと思います。</li> <li>・私、琵琶湖河川事務所専門調査官をしております奥野と申します。よろしく願いいたします。</li> <li>・本日、委員の方々全員ご出席ということで、規約に基づいて、この会議が成立しておりますことを報告させていただきます。</li> <li>・本日、制度運営委員会の中で規約と河川レンジャーの活動要領の改正ということで2点ほど審議をさせていただきたいと考えておりますので、後ほどまたよろしく願いいたします。</li> <li>・続きは支援室から説明をさせていただきますので、よろしく願いします。</li> </ul>
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動支援室の中西と申します。よろしく願いいたします。</li> <li>・まず、お手元の配付資料の確認をさせていただきます。本日の配布資料は、議事次第、委員名簿。それから、本資料としまして資料－1から資料－3、参考資料は5種類お配りしてございます。もし不足がございましたら、お申出ください。</li> <li>・次に、委員のご紹介をさせていただきます。本日は全員出席ということで、また、コロナ禍にありました令和2年からしますと、全員そろうのが6年ぶりとなりまして、今日は対面でご出席いただきましてありがとうございます。その間に新しい委員の方もいらしております。まず、委員長の中谷委員でございます。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中谷です。よろしく願いします。</li> </ul>
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> <li>・副委員長の北井委員でございます。</li> </ul>
	北井	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北井です。よろしく願いします。</li> </ul>
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平山委員でございます。</li> </ul>
	平山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平山です。よろしく願いいたします。</li> </ul>
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それから、昨年度委員になっていただきました佐々木委員でございます。</li> </ul>
	佐々木	<ul style="list-style-type: none"> <li>・佐々木です。よろしく願いいたします。</li> </ul>
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それから、行政関係者ということで、滋賀県土木交通部からは加藤委員でございます。</li> </ul>
	加藤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加藤です。よろしく願いします。</li> </ul>
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> <li>・琵琶湖河川事務所所長の柴山委員でございます。</li> </ul>

	柴山	・柴山です。よろしくお願いします。
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございます。</li> <li>・今日は、河川レンジャーは4名全員来られています。後ろにお座りいただいております。河川レンジャー運営事務局としましては、河川事務所の田中、奥野、芝野、岡本となります。河川財団、活動支援室のほうでは、松岡、中西、成宮がおります。それから、傍聴者お一人参加いただいております。</li> <li>・本日の議事は2番の「報告」から「その他」のところまでとなっております、時間は3時半までを予定してございます。</li> <li>・では、これ以降の議事進行は中谷委員長をお願いいたします。よろしくお願いします。</li> </ul>

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, △印：事務局, ○印：一般傍聴者)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
2. 報告 (1) 河川レンジャー活動支援室からの報告	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・では、進めさせていただきます。ご協力、どうぞよろしくお願いいたします。</li> <li>・議事次第に従いまして進めさせていただきます。まずは支援室からの報告ということで、説明をお願いします。</li> </ul>
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それでは、お手元の資料-1をご覧ください。</li> <li>・まず、1ページ目が令和7年度の支援室の主なスケジュールということで、4月から年明け3月までの状況を示しております。6月にこの委員会を紙面開催させていただきました、その後ということでは、真ん中に黄色で網かけをしておりますが、河川レンジャー研修を2回行ってございます。10月に入りまして、本日の制度運営委員会、それからこの後に意見交換会を予定してございます。また、河川レンジャーのミーティングは真ん中の列のように進めております。今後も適宜開催したいと思っております。右側の列は河川レンジャーレポートということで、3回の発行を目途としております。8月に発行しました56号は、今回、参考資料-5としてつけております。委員会関係は、通常ですと、2月に第77回制度運営委員会を予定してございます。支援室の予定は以上となっております。</li> <li>・2ページ目は河川レンジャー・河川レンジャートライアルの募集状況ということで、現在、募集を進めているところでございます。</li> <li>・次に、サポートボランティアの取組です。地域への周知活動ということで、レンジャー及びトライアルへの応募のハードルを下げられるような取組としてサポートボランティアを昨年度から始めております。今年度も6月から11月にかけての各レンジャーさんの活動でのボランティアを案内したところ、表に示している活動について、各回1名から3名の方</li> </ul>

		<p>に参加いただいております。こういったところでレンジャーさんの活動を見ていただいたり、レンジャー制度の説明も合間にさせてもらっております。サポートボランティアの方は、シニアの方、学生の方、2つのパターンに分かれているようなところでございます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4番。河川レンジャーの勉強会を開催したと申しておりましたが、8月29日と9月1日にかけて、1つは瀬田川を中心にした勉強会、1つは野洲川を中心にした勉強会ということで、河川レンジャーさんが興味を持たれている、各地での河川事務所の事業等を深掘りで学ぶというような機会とさせていただきました。これは、6月9日にまず河川事務所さんとの意見交換をしまして、その後、深掘りテーマをヒアリングして決めていったというようなところでございます。</li> <li>・ 4ページ、5ページにその結果を載せておりますが、瀬田川の勉強会の場合は、瀬田川の維持管理の取組ということで、伐木や堆肥の配布の仕組み、瀬田川洗堰の仕組み、出水時・平水時の操作をどういうふうに行っているのかというようなことを聞いたり、また、浸水想定区域図の見方ということで、この周辺の想定図の見方を実際に現地を歩きながら意見交換させていただきました。河川レンジャーさんの活動にも生かしていけるんじゃないかというような意見交換もできたのかなと思っております。</li> <li>・ 5ページ目は、野洲川のレンジャー勉強会。今話題の野洲川MIZBEステーションの進捗状況ということで、河川レンジャーとしても関わっていければというような場所でもありますので、この辺りの状況を詳しく聞いたと。また、野洲川での維持管理の活動、伐木・堆肥の配布状況について現場を歩いて確認しました。</li> <li>・ それぞれの中間報告の中でも出てくるかもしれませんが、以上が勉強会の報告でございます。</li> <li>・ 最後のページは、河川レンジャーレポートの56号。春から夏にかけての活動の紹介と、今回より末吉レンジャーが入られたというご紹介をしております。</li> <li>・ 簡単ですが、以上でございます。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ご報告ありがとうございました。</li> <li>・ 今もありましたように、レンジャーさん自身の勉強会、またレンジャーさんの活動をサポートするボランティアさんとか、今、トライアルの関係はうまく仕組みができていっているのかなというふうに思っております。</li> <li>・ 委員の皆様から今の報告の中で質問やご意見等ありましたら、お伺いいたします。</li> </ul>
	柴山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「3.」の活動サポートボランティアの取組のところ、4月から来た</li> </ul>

		<p>ので、昨年度決めて今年やったのかなというふうに思って見ていたんですけども、龍谷大学で学生さんに案内したということで、これから拡大していけるものなんですか。学生さんはボランティアにどういうふうに興味があるのかとか、正直詳しくなくて。もっと広げていけるものなのか、龍谷大学が特別ご熱心で、広がりとなると、なかなか難しいという感触なのか、どういうふうに見たらいいかなと思って。教えてください。</p>
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学生も非常にボランティアに興味を持っておられる方が多いです。龍谷大学もそうですし、立命館大学もそうですし、ボランティアセンターみたいなものがありまして、そこにボランティアに興味を持っている学生さんもお手伝いに来られています。</li> <li>・これはボランティアフェスタというイベントだったんですけども、ボランティアをしたい方がいろいろ話を聞いて、どういうところにニーズがあるのか、自分の興味があるのかというのを探すような機会でした。やはり地震の後のボランティアや保育施設へのボランティア、いろんなボランティアに興味を持たれているようでして、その中に参入させていただいて、こういう地域への活動のボランティアもありますよということで行ってまいりました。実際、興味を持たれた学生さんがサポートボランティアに参加していただくというような事例につながっています。</li> </ul>
	柴山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加していただいたら、うれしいですよ。</li> <li>・ほかの大学でもあるんですか、そういうサポートセンターみたいなのは。</li> </ul>
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はい、そうですね。</li> </ul>
	柴山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そうなんですね。少し工夫すれば、もしかしたら、次年度も拡大の可能性はあるんですかね。はい、分かりました。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そうですね。今、お話があったとおり、学生さんも学校横断の組織があったりするので、学生さんの何か——今も話があったように地震の関係とかあるし、琵琶湖の周りでも外来植物の駆除に熱心に取り組んだりしている経過があるので、全体にふわっとしたボランティアというよりは、何かテーマを決めてそういう学生の協会的なところへお知らせすれば、多分ヒットするかなと。今はもうネットワークが簡単につながっている感じがするので。まあ、仕掛けが大事かなとも思いますしね。またそれは今後充実させていけるといいし。まあ、学校の先生もおられるので、その辺も通じて。</li> </ul>
	平山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県立大学とか湖西のほうの大学は物理的に難しいので、やっぱり野洲川、瀬田川に近い大学がいいと思います。</li> <li>・私もIVUSAの活動をすごく興味深く拝見しています。特に外来植物の駆除で全国から大学生が集まってくるんですけども、彼らがなぜそれを活動するのかというのがまだよく分からないところがあります。琵琶湖の</li> </ul>

		問題に特に興味があるということでもなければ——何でしょうね。そのプロセスを通じてその場にいることを楽しんで活動されているような印象です。若いからということではなくて、何か特殊な人たちがいるんじゃないかという感触を持っています。それは何なのか—わからず、すごく不思議なんですけれども、そういう人たちにアプローチできればいいかなと思います。
	佐々木	・1点だけ。近ければ来るというものではないのは、この受託業務をやっていたときに身にしみて感じました。全ての近郊の大学へ行きましたけど、どっちかという、大学の仕組みとか校風に左右されます。なので、距離だけで見ないでいただけるとありがたいです。
	平山	・もちろんそうなんですけど、遠ければその時点で難しいので、そこ無理に頑張らなくても良いという意味ですね。
	中谷	・よろしければ、次に進めさせていただきませんか。

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, ○印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
2. 報告	中谷	・では、レンジャーさんからの中間活動報告に移らせていただきます。
(2) 河川レンジャー中間活動報告	△中西	<ul style="list-style-type: none"> <li>・続きまして、資料-2をご覧ください。</li> <li>・昨年度から、中間報告を毎年義務のようにつくることはやめて、この時点で何かレンジャーさんが伝えたいことや相談したいことをお話ししていただく会にしたいということで、事務的な部分はある程度事務局のほうでつくって、この後、説明もさせていただきますけれども、重要なポイントをそれぞれのレンジャーさんからお話ししていただくかと思っております。</li> <li>・レンジャーさんごとに15分で時間を区切って、事務局が5分、レンジャーさんが10分、時間を取らせていただきます。</li> <li>・資料が根木山レンジャー、水上レンジャー、野村レンジャー、末吉レンジャーの順になっておりますので、この順でご説明させていただきます。</li> <li>・では、根木山レンジャーには演台に移っていただいて、事務局からざっと内容を説明させていただきます。</li> </ul>
	△松岡	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局の松岡です。よろしくお願いたします。</li> <li>・この資料の最後の項目が「活動を通して得られた成果および課題等」となっておりまして、ここより前の部分を私からざっとご説明した後、河川レンジャーさんにバトンタッチして、委員の皆さんとという形にさせていただきます。</li> <li>・それでは、説明をさせていただきます。</li> <li>・1ページ目。まず一番上にございます「実施目的」、その下の「活動計画の内容と途中経過」の左側、この部分につきましては委員会で承認を</li> </ul>

		<p>いただいた今年度の活動計画をお示ししております。右側の太枠の中が、その各計画に基づいて今年度河川レンジャーさんが活動されてきた現在までの状況となっております。これは、既に皆様にご報告しております河川レンジャーからの月間活動報告、その部分のカレンダー的なところを抜粋しているような状況でございます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・根木山レンジャーに関しましては、大きく3つの項目で計画を立てられております。</li> <li>・1つ目が野洲川上流部（栗東市域）での取組ということで、ここはまだ可能性を探る、手探りの状態で昨年度からスタートされているところなんですけれども、今年度につきましては6月に現地を見に行かれております。</li> <li>・2番目、野洲川中流部（野洲市域）での取組としましては、野洲市さん、滋賀県さん、琵琶湖河川事務所さんで協議会を組んで進めておられる野洲市のMIZBEステーションかわまちづくり、こちらの関連で今年度取り組んでいこうと計画をされました。今年度におきましては、そのMIZBEステーションの事務局さん、琵琶湖河川事務所さんから情報の橋渡しもいただきながら、状況の共有、また調整等を行われまして、9月21日（日）のMIZBEステーションの社会実験イベントに河川レンジャーとして携わられたということでございます。</li> <li>・3つ目、野洲川下流部（守山市域）での取組ということで、こちらは根木山さんがスタート時から長年携わられているエリアでもございまして、多岐にわたる取組をされております。まず、住民グループさんへの伴走支援の取組ですとか地元のこども園さんに向けた取組、また昨年度より地元で清掃活動を行われている別の住民グループの方々との関わり、そして募集型で野洲川に親しむ取組など、計画をされております。</li> <li>・まず、清掃を行う住民グループの活動支援としましては、年度当初でしたけれども、4月に野洲川出張所さんとも調整・連携されながら実施をされております。</li> <li>・その下、地元の中洲こども園さんの教員の方向けの研修及び園児の川遊び体験ですが、今年度も要請を受けられて、継続的に7月期に取組をされております。</li> <li>・そして、住民グループさんによる河川利用活動の支援としましては、年度当初の4月期から、定期的な内容も含めて、4月、6月、7月、8月と取組を行っておられます。</li> <li>・ざっと走りまわりましたが、上半期の根木山レンジャーの活動の状況としては以上でございます。</li> </ul>
	△中西	・では、続けて、根木山レンジャー、お願いします。
	R根木山	・根木山です。よろしく願いいたします。今、事務局から全体的にはご

	<p>報告いただいたので、私からは今年度新たに取り組んでいる部分を主にお話しさせていただきます。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・まず、1つ目の上流部の活動は、実はなかなか進められていなくて、遅れていることをご報告させていただきます。その上で、中流域、野洲市さんと一緒に取り組んだ取組と、下流部で野洲川をきれいにしたいという住民の方をサポートした取組についてご報告させていただきます。</li><li>・まず中流域なんですけれども、野洲川MIZBEステーションという計画が既に始まっていて、琵琶湖河川事務所、野洲市役所さんで計画をされて、地元住民も含めた協議会をつくっておられます。</li><li>・この計画は、河川関係者はよく御存じだと思うんですけども、防災ステーションを整備するというのと、同時に住民が水辺に親しめる場所をつくっていくという計画になっていて、別事業ではあるんですけども、隣接する敷地に県立高専が令和10年に開校するというので取組をされておられます。</li><li>・その中で今年度は社会実験をされるということで、住民も参加されている検討部会で検討されて、9月21日に社会実験イベントをされました。それのごく一部なんですけれども、水の中に実際に入るというプログラムを担当させていただきました。</li><li>・こんな計画で社会実験イベントがあって、このうちの赤で囲んだ部分の運営を協力させていただきました。野洲市役所さんと、野洲市役所さんから委託を受けた業者さんと一緒に取組をさせていただきました。</li><li>・これは野洲市さんの会議資料をコピーしているんですけども、当日は事前申込制で、定員いっぱいの6組20人の方にご参加いただいて、運営に関しては、野村レンジャー、中西マネージャーにもご協力いただきました。あと、琵琶湖河川事務所の職員の方も現場にいらしたので、見守りの部分で応援させていただきました。</li><li>・これも野洲市役所さんの会議資料で、野洲市役所さんのほうで聴取されたアンケート結果です。一番上の「(1) 自然について」ですけど、水辺や森などでゆっくり過ごしたいという声があるんだなということが確認できるかと思います。</li><li>・これが、私が担当した川のプログラムの参加者のアンケート結果です。おおむね好意的なアンケートをいただけたかなと思っています。「野洲川の印象が変わりましたか」に対して「変わった」という方が大多数で、実際の声を聞いてたりすると、僕らからしたら当たり前なんですけど、普通の住民の方からすると、川の中に入って魚がいるということを新鮮な驚きを持って経験されて、そのことで野洲川への印象が変わるということの現実というか、実態が分かるかなと思っています。なので、河川関係者からしたら「川というのは自然がいっぱいで豊かだよな」という</li></ul>
--	---

		<p>のは当たり前なんですけれども、現実、沿川の住民にとってはそういう体験をする機会がないので、やっぱりこういう機会を少しずつつくっていくのは非常に大事なことかなと私自身は思っております。基本的には、好意的な印象が多かったと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次に、下流部で野洲川をきれいになりたいという熱い思いを持たれた住民の方の清掃活動をサポートする活動をしました。昨年度後半から住民の方とお話をさせていただいて、4月当初に第1回の清掃活動をするということでその準備をしてきて、野洲川出張所とも情報交換をしながら、4月に第1回クリーン活動をさせていただきました。小規模ではありましたが、参加してくださった住民の方もあって、いい活動になったと思います。</li> <li>・住民のほうではこれをきっかけに住民団体を発足されて、守山市の地域づくりの助成金にもチャレンジして採択されたというようなことを伺っております。</li> <li>・あと、8月には、河川の中に散在性ごみがあるので、その問題についてどういう対応ができるのかということ住民の方と河川管理者の方と一緒に情報交換をさせていただきました。</li> <li>・私からは以上になります。よろしくお願いたします。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・根木山さん、ありがとうございました。</li> <li>・では、今、報告いただいた件について、委員の皆様から質問、ご意見がありましたら伺います。どなたからでも結構ですので、ご発言いただければ。</li> <li>・皆さんが見てはる間にちょっと私から。今映っているこれですね。きれいにしたいというのは、やっぱりごみが散らばっているから何とかしたいという思いが強いのでしょうか。</li> </ul>
	R根木山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そうですね。やっぱり河川、特に橋の周辺とか、堤防上が兼用道路になっているケースではどうしても河川空間にポイ捨てみたいなものの結果のごみが目につくので、それをきれいにしたいという思いを強く持たれていて、既にそれを1人でされていらっしゃるんですけども、1人でできることは限られているので、仲間を募ってしたいんだということで、それをサポートさせていただいている状況です。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございます。</li> <li>・数はそんなに多くないんですけど、野洲川を縦断方向に歩くよりは、今おっしゃったとおり、横断する道路から捨てられているごみがすごく多いのかなと。多分この瀬田川辺りでも同じようなことが言えるのかなと思っまして、そういう活動をきっかけに、地元の人とか、通過交通がごみを捨てないというところへうまくつながっていくといいのですが。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・はい、佐々木さん、どうぞ。</li> </ul>
	佐々木	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本当に途中の過程が見えてないのでいつの間にかこうなっているという感覚で見てるんですけど、1つ目にお伺いしたいのは、自分がやると仮定すると、これは普通に物すごい手数がかかることが容易に想像できて、全部進捗してなくても全然疑問がないぐらいの密度を感じるんですね。しかも、書いておられる中主とか北流の河辺林というと、かなり有名な有力者がいらっしゃるエリアとお見受けしているので、なかなかハードなことをされていらっしゃる印象があって、必要があってやっつけられているんだっいたらいいんですけど、タスク的には大丈夫ですか。</li> </ul>
	R根木山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございます。</li> <li>・下流部のほうは、おかげさまで、長年取組をさせていただいているので、ある意味、ルーチン化しているというか、非常に効率よくできる。あと、出張所さんとの関係も非常に良好に継続させていただいているので、そこはすごくスムーズに効率的にさせていただいています。でも、そればかり続けているのではなくて、新しい取組もということで、ここ数年の委員会での議論も踏まえて、今、中流部と上流部のほうにも手を広げていこうと。</li> <li>・でも、中流部のほうも、単独でやるというよりかは、ご紹介させていただいたように、野洲市役所さん、琵琶湖河川事務所さんのほうで地元住民を含めた体制をつくっておられるので、その中で「かゆいところはどこですか」というふうに聞いて、河川レンジャーでしかできないところ、いわば水の中の活動はなかなかやりにくい部分があるみたいなので、そういう意味では、今年度は役に立ててよかったなと思っています。</li> </ul>
	佐々木	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野洲市の環境基本計画の中間見直しに携わらせていただいたことがあって、その中でも「野洲市民は、家棟川に対して意識は向くけれど、野洲川というのはあんまり関わりのない河川」という話をワークショップで受けた印象があったんですね。そういう意味でいうと、結構核心的なところでもあるし、あの辺は市境が入り組んでいる辺りでもあるので、また何かあれば、私の知っている範囲であれば、お答えしたいと思っています。よろしく願いいたします。</li> </ul>
	R根木山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございます。ぜひよろしくお願いします。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほかにいかがですか。はい、北井委員。</li> </ul>
	北井	<ul style="list-style-type: none"> <li>・佐々木委員と同じく、「よくぞ、これだけ」と思いながら拝見しているので悪いほうの意味じゃないんですけど、上流部の活動がちょっと遅れていますということなので、下半期はどのぐらいまで想定されているのかを教えてください。</li> <li>・あと、やすたんの活動で、川で遊ぶ人数が多くなってきたなと思っていました。ほかの活動でも保険の対応に悩まれるところは多いですが、ど</li> </ul>

		うされているんだらうと素直に疑問に思ったので、ちょっと教えてください。
R根木山		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございます。</li> <li>・上流部は、3年目になるので、今年度は十分に連絡がとれてないんですけども、栗東市役所さん——まあ、栗東市役所の中でも、市長が「何か野洲川で」ということをおっしゃったのがきっかけで市役所としても動き始めたというのがここ3年ぐらいの動きで、以前の事務所長からも情報提供いただいて動き始めた部分があるので、市役所であるとか、河川公園を占有されているスポーツ協会さん、栗東市の外郭団体さんもこれまで一緒に連携させていただいているので、まずはそことも情報交換しながら。今までは川遊びとごみ拾いをやっているの、「じゃあ、次はどこをやりましょうか」という相談をしないといけないなと思っているところです。</li> <li>・下流部の川遊びでは、住民グループのいつものメンバーではなくて、いつものメンバー以外の方に参加できる機会をつくっていただいてまして、昨年度ぐらいから100人ぐらいの方が集まってくださるようになりました。徐々に増えていってありがたいなと思っていて、それを地元の学区長さんが橋の上から見て「いい光景だな」とおっしゃっているというのが伝わってきているので、本当に長年続けてきた成果だなと思っています。</li> <li>・安全管理に関しては、住民グループさんのほうで民間の活動助成金を取得して、それを財源にして保険に加入いただいています。でも、今まで保険を使ったことはないんですけども、「万一のときにはその保険を適用するよ。でも、基本的には保険の補償範囲内でしか補償はできませんよ」ということは募集の段階で参加者にも事前にエクスキューズしているような状況で実施していただいています。</li> </ul>
北井		・ありがとうございます。
中谷		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほかにいかがでしょうか。</li> <li>・そしたら、時間のこともありますので次の方へ行っていただいて、後でまた振り返りでお話を聞ける機会があればと思います。</li> <li>・根木山さん、ありがとうございました。</li> </ul>
R根木山		・ありがとうございました。
△中西		・続いて、水上レンジャー、お願いいたします。
△松岡		<ul style="list-style-type: none"> <li>・それでは、資料の5ページから水上レンジャーの活動状況をご報告させていただきます。</li> <li>・水上レンジャーにおかれては、今年度承認いただいた計画で大きく3つ計画を立てられました。1つが、企業、住民をつなぐ野洲川清掃活動。2つ目が、水害から地域を守る（防災）の取組。3つ目が、野洲川河口</li> </ul>

	<p>部ヨシ帯モニタリング調査でございます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まず1つ目、「企業、地域住民をつなぐ野洲川清掃活動」ということで、これは、夏と秋の2回、下流部、河口部の守山市幸津川地域辺りで企業の方、住民団体の方、自治会の方、そして琵琶湖河川事務所さん、守山市さんのご支援・協力もいただきながら取り組まれております。</li> <li>・夏の清掃活動におかれては、5月31日で調整をされて当日を迎えられました。この取組には河川レンジャーサポートボランティアも参加いただきました。</li> <li>・秋の取組でございますが、ここに記載は反映されておりませんが、先日、10月25日（土）に実施をされております。</li> <li>・そして、この項目の中ではもう一つ、野洲川の上流部の河川清掃。こちらにも上流への展開ということで、まだ試行的な形ですけれども、昨年からは模索をされております。6月期に取組の中身について一度河川事務所さんとも打合せをされて、現在検討中という状況となっております。</li> <li>・2つ目が、水害などから地域を守る（防災）の取組。昨年度から大津市立南郷小学校の児童の方への啓発ということで縁ができて、今年度においても取り組んでいこうということで、7月に2回、学校さんも含めて調整を進めておられます。現在、こちらにも実施に向けた具体の調整の詰めをされていると伺っております。</li> <li>・そして、3つ目、野洲川河口部ヨシ帯モニタリング調査。こちらにも長年立命館守山中学校さんとの縁がありまして、水上レンジャーがずっと取り組み、河川事務所さんとの間をつないでこられました。現在はもう河川事務所さんと学校さんとは直接つながっているというところで一歩下っておられる状況ではあるものの、学校さんも事務所さんもお顔ぶれが替わったりということで、現在も継続して当初のつなぎ役から橋渡しの調整等々をされて、今年度におかれても5月16日に実施をされたというところでございます。</li> <li>・以上でございます。</li> </ul>
R 水上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水上です。どうぞよろしく申し上げます。お手元の資料、5ページから説明をさせていただきます。</li> <li>・5ページの「(ミッション)」のところにテーマがあるんですが、今年度やろうとしているのは、環境保全。簡単に言いますと、野洲川の河川清掃をやりましょうと。それから、⑤の「水害などから地域を守る(防災)」。</li> <li>・そして、先ほど支援室から説明があった1番から3番までのテーマでやっています。</li> <li>・その内容を見ていただくと、暑いときにはできないんです。防災かまだなんかは暑くてできないですし、今年は特に暑いから。それで、私のスケジュールの流れとしては、中間報告のときには成果はまだ出てません。</li> </ul>

		<p>ただ、いろんな調整をしながら進めていますので、それについて説明をさせていただきたいのと、それから野洲川河口部についてはやりましたので、その説明をさせていただきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まず、5ページの野洲川河川清掃。これは夏と秋です。ただ、夏にやるのは暑いので、調整した結果、何とか5月にすることができました。ただ、何の科学的根拠もないんですけど、すべて雨が降るんです。このときも雨が降ったので、予備日でやりました。だから、2回調整をやりました。</li> <li>・秋のほうは、先週の土曜日、すごい天気だったんですが、かろうじてできました。ちょっと範囲を広げて野洲川の河口部までやりましょうということで、2キロちょっとの範囲ですが、それを調整してやりました。この結果の詳細については、次回報告させていただきたいと思います。</li> <li>・それから、6ページの「水害などから地域を守る（防災）」。昨年度、南郷小学校で防災かまどによる炊き出し体験を実施しました。今年は、7ページの「活動を通して得られた成果および課題等」の2番目にありますように、野村レンジャーが防災の関係で浸水歩行体験の活動を既にやっておられましたので、野村レンジャーと連携して南郷小学校でやろうということで調整を進めています。11月の下旬から12月の初めぐらいを予定していますが、もちろん屋外でやりますので、雨が降った場合に備えて予備日も設定しています。</li> <li>・あと、上流については今どういう形でしているかといいますと、去年、根木山さんと連携して栗東市のほうでやろうという話をしました。それで何回か現場へ行っているんですけど、ほとんどごみがないのでちょっと入りにくいということで、実は国交省のOBの方で知っている人がいましたので、まだ声はかけてないんですが、野洲市に声をかけて、野洲市と野洲市の企業と連携して上流のほうに河川清掃を広げていくということで今考えてます。12月になったら動いて、2月か3月にやろうと思ってます。</li> <li>・今回は実施したことをお話しできなくて申し訳ないんですけど、こういう工夫をして調整をしていますという報告をさせていただきました。簡単ですけど、以上で中間報告とさせていただきます。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水上レンジャー、ありがとうございました。</li> <li>・ただいま報告いただいた件について、委員の皆様から質問、ご意見等伺います。どなたからでも結構です。どうぞご発言ください。</li> <li>・はい、平山さん。</li> </ul>
	平山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございます。</li> <li>・細かいところで3点お伺いしたいことがありまして、1つ目が、企業と住民をつなぐ清掃活動については、レイマックさんとずっと一緒にされ</li> </ul>

		<p>ていると思うんですけども、レイマックさん以外の企業へ広げることは考えておられるかということ。2つ目が、野洲川上流の清掃活動について、根木山レンジャーの活動との関係をお伺いしたいです。3点目は、コーディネーターの役割としては引き気味ではあるけれども、それぞれ学校と事務所で人が替わるからやっぱり水上レンジャーが必要だということなんです、コーディネーターがいなくても一緒に活動できるというのがいいかなと思います。中学校は中学校の中で、事務所は事務所の中で引継ぎをして、水上さんが関わらなくなるということはどうにお考えかというか、もうずっとお付き合いしますという感じなのか、やっぱりいつかは引いていきたいと思っていच्छるのか。この3点を教えてください。</p>
R水上		<ul style="list-style-type: none"> <li>・立ち上げたときはレイマックさんだったんですけども、近くにJA、農協さんがあったので話をしに行きました。そのときは、JAさんから、ほかにもCSR活動をしているからちょっと難しいということだったんですけども、来ていただきました。ただ、そのJAさんが、支店だったんですけども、今は違うところへ行ってしまったから、今のところ、レイマックさんだけなんです。</li> <li>・ただ、栗東の上流のほうは、大手の中国塗料さん、それからその向かいにある企業をうまく結びつけて去年は来ていただいたという形ですね。</li> </ul>
平山		<ul style="list-style-type: none"> <li>・分かりました。そしたら、レイマックさんだけではないけれども、実態としては。</li> </ul>
R水上		<ul style="list-style-type: none"> <li>・そうそう。滋賀銀行さんとか、いろんなところへ声をかけたんです。</li> </ul>
平山		<ul style="list-style-type: none"> <li>・分かりました。</li> <li>・根木山レンジャーの活動との関係はいかがですか。</li> </ul>
R水上		<ul style="list-style-type: none"> <li>・根木山さんは、どっちかという、水辺に親しむもの、あるいは住民とうまくネットワークをつなぐと。それから、私は、テーマが「住民と行政がともに考える川づくり」なので、行政、例えば栗東市や野洲市、もちろん河川管理者である琵琶湖河川事務所に参加していただいて、行政と一緒に住民の人が考えると。その中で住民のいろんな意見をもらって、うまく反映できるようにするというのが最終目的ですね。まずは一緒に汗をかきましょうということで、そういう調整をさせていただいています。だから、ちょっと切り口が違うんですね。個人的には、河川レンジャーにはいろんな切り口があってもいいかなと思ってます。</li> <li>・それから、3つ目ですが、野洲川河口部もそうなんです。当初、立ち上げたときに一体何年やるのかという話がありまして、途中、事務所と立命館守山中学との信頼関係ができたところで一旦切ったんです。ただ、どうしても役所の方は転勤があります。そこはどうしようもないところがあるので、結果的には転勤された方を紹介するぐらいはやると。これ</li> </ul>

		<p>はそれしかないと思っているんです。だから、今回もほとんど役所のほうがメインでやっていて、私はちょっとコーディネートをさせていただいているという形で持ってきているので、そのままいけるんじゃないかと思っているんです。それである程度うまくいけば終わるし。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実は、野洲川河口部のモニタリングは、事務所と相談しないとイケませんけども、もうこれで終わろうかというところもあるかもしれませんので、そういう終わり方ができるかどうかというのをまた検討していきたいと思います。</li> </ul>
	平山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございます。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほかにいかがでしょうか。はい、加藤委員、どうぞ。</li> </ul>
	加藤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年からなので的外れな質問かもしれないですけど、滋賀県も河川を管理してまして、河川愛護活動といたしまして、自治会さんに市町さん経由の委託をして除草なり清掃をしていただいているんですが、高齢化で人手不足なりで年々参加団体・参加人数が減少傾向という問題がありまして、毎度毎度議会から質問をされているところです。</li> <li>・その対応として今回されているように企業さんにも参画してもらう形をとろうかなという方向を考えてまして、企業さんへどういう感じでアプローチをされているのか。数行ったと言わはったんですけど、飛び込みで行くのか、誰かのご紹介で行ったほうがいいのか、何かいいアプローチの仕方があれば教えていただきたいのと、あと企業さんがその活動に参加したいと思われるような仕組みがあるのか。その2点を教えていただけますか。</li> </ul>
	R水上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レイマックさんの話をしますと、根木山さんから「こういうところがあるよ」と言われて行きました。電話では駄目です。必ず行って、詳しく説明したら、運がよかったのかもしれないんですけども、その社長が物すごく熱心な人で、「やりましょう」と。その代わり、電話でなくて、こちらから絶えず行って、ちゃんと対面でやりました。その結果、12回やってもらっているんです。それを国交省にも言って、愛護月間に表彰とか、そういうことをやってもらって続いています。それが1つです。</li> <li>・もう一つは、新たに去年やり出したのが、「CSR活動はどうですか」と電話して説明に行くんですが、河川レンジャーのことをみんな分かってないんですね。だから、「国土交通省の」というのを全面に出しています。それを何回も言ったら、「分かりました」ということで話を聞いてくれました。そしたら、そのときに熱心な人がいたと。</li> <li>・それから、もう一つ。中国塗料さんへ話に行ったときに、中国塗料さんから「うちの前にある会社に行ったらどうや」ということで口コミで教えてもらったわけです。そこで増やしていったという形。</li> <li>・言いたかったのは、行政はどうしても殿様営業で待ちの状態になるから、</li> </ul>

	きちんと行って、対面で詳しく説明すると。そして、向こうのウインを考えてやりました。以上です。
加藤	・ありがとうございます。
中谷	・ありがとうございます。 ・では、ベルが鳴りましたので、水上さん、ありがとうございました。
R水上	・どうもありがとうございました。
△中西	・では、野村レンジャーのページをお開けください。9ページです。
△松岡	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それでは、説明をスタートさせていただきます。資料は9ページからになります。</li> <li>・野村レンジャーにおかれては、今年度、大きく3つの項目で活動計画を承認いただいております。1つが瀬田川たんけんたいの取組、2番目が瀬田川を知るワークショップ、3つ目が活動の場で聞き取ったことを行政につなぐというものでございます。</li> <li>・1つ目、瀬田川たんけんたいは、「瀬田川の良さを感じる体験を通して、子どもたちの川への思いを育てる」ということで今年度も4月から応募を行いまして、第1回目を6月28日にスタートされております。たんけんたいとしましては合計6回の取組計画となっております。第4回、鹿跳溪谷の石調べを今週末の11月1日（土）に実施予定です。</li> <li>・2つ目、瀬田川を知るワークショップは、今年度3つのテーマのワークショップを計画されております。現在までには1つ目の「ふなずしを作ろう」というワークショップを実施されておりまして、今後、植物観察会、貝掻き漁の体験というところの調整を詰めて実施予定でございます。</li> <li>・3つ目が「活動の場で聞き取ったことを行政につなぐ」ということで、1番目、2番目の活動を通じた参加者からの声や反応、さらには、紙面の右側にも少し書いておりますけれども、そうした活動中とは別に、個別に瀬田川沿川に関わる方々へのヒアリングといたしますか、お会いされて、様々なお話を伺っておられます。そういったところも月間の活動報告で委員の皆様にはご報告をされて、事務所様にも報告という形をとられております。</li> <li>・そして、この紙面の一番下、「4. その他」とございますけれども、こちらは、計画上、予定していたものではなく、実は、今年度、大津市立南郷小学校の先生から2年生児童への授業についての相談が活動支援室にございました。そのお話を聞いた中で、是か否かというところは野村レンジャー自身をご判断されるんですけども、一度そのお話を紹介させていただいたところ、野村レンジャーとしても沿川の方々とのつながりは非常に大事にしていきたいというところから協力をされたということで、今年度9月にその授業についてサポートされております。</li> <li>・以上でございます。</li> </ul>

△中西	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そうしましたら、野村レンジャー、お願いいたします。</li> </ul>
R野村	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野村です。よろしくお願いします。</li> <li>・今年3年目になります。いろんな方とだんだんと顔が見える関係になってきたかなと思っているんですけども、楽しく活動をさせていただいております。</li> <li>・瀬田川たんけんたいは予定どおり進めているんですけども、水上レンジャーの報告にもあったように、昨年度、淀川のレンジャーさんとの交流会があったときに教えていただいた浸水歩行体験、これがすごく簡易な仕組みでありながらお話もできるし、活動もできるのでぴったりだと思って、今年、自分の地元のほうでつくらせていただいて、それをこちらに持ってきて体験してもらいました。防災の話と絡めて活動してもらったところ、子どもたちもすごく理解度が高く、また瀬田川の洗堰の関係も分かって、よい活動になったのではないかなと思っています。</li> <li>・そして、プランクトン観察。水の状態は今どうなのかということで、専門家の先生をお招きして、実際に見て、きれいやか、ラン藻類が増えているからこういう臭いがするのかなとか、いろんなことを体感しながら学習ができたと思います。</li> <li>・第3回の外来魚釣りですけども、ザリガニのむき身をしたり、解剖をしたり、その中で胃の中からたくさんのエビが出てきて、これが瀬田川にたくさんいて、これだけのものを食べてしまっているんだということ、それから、たまたまそのときに洗堰の下流で漁協の方が調査のための、駆除のためのチャンネルキャットフィッシュを取り上げておられて、それを持ってきていただいて、その話もしていただいたり、一緒に見たりして、今まさに瀬田川で起こっている問題についても学習できました。</li> <li>・ワークショップとしましては、1回目にふなずし漬けをしました。これは3回目のワークショップとも関わってくるんですけど、漁協さんに魚を手配いただきまして一緒にやりました。魚を実際に触ったことがないという子どもたちばかりだったので、細かに観察をしながら食文化の話もできたと思います。これは私が自宅に持って帰りまして、楽しみに待つということで、参加者の皆さんには逐一ご報告をしております。</li> <li>・それから、これが南郷小学校さんからご依頼があったことなんですけども、10種類以上のおもちゃを紹介しまして、子どもたちは水の性質の面白さとか不思議さとか、そしてまたそれを自分たちで工夫して発表会もしてくれたり、これをぜひ1年生の生活科の授業にも紹介したいということで昨日お手紙をいただいたんですけども、発展型がなかなか楽しかった授業でありました。南郷小学校といいご縁ができましたので、これからも続けていけるといいなと思います。</li> <li>・こちらが活動の場でいろいろヒアリングに行かせてもらったり、活動の</li> </ul>

		<p>中でお話をいただいたようなことです。課題になっていくこと、これから追求していきたいことをいろいろ聞かせていただくことができました。私はレンジャーとして何ができていくのかな、どうつなげばいいのかなということを今計画中です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• これまでの成果としては、たんけんたいやワークショップをすることによって私の目的としていた「関心を高める」「愛着を持つ」というようなことが高まってきたかなと思うのと、それからレンジャーとしては本当につながりができてきましたし、川に住民さんが関わっていく機会を提供できてきているかなというふうに思います。</li> <li>• 課題としましては、毎年聞いていただくことなんですけども、広げる、新しいファンを増やすということで、来年度は新規だけの人にしようかなと。今3年目の子もいますので、もっとしたいと言ってる子についてはスタッフ参加として関わってずっと続けてもらおうかなというように考えています。</li> <li>• それから、南郷小学校を例とするんですけども、ウォーターステーションがというか、支援室がつなぎをしてくださって、これからだんだん増えてくると思うんです。それで、学校さんですと、本当に時間がなくて、私のほうも時間がない、向こうさんも時間がないということで、ある程度の目的とか何人とかいつ頃とかいうようなことが様式としてあるといいなというふうに思いました。</li> <li>• それから、こちらの設備なんですけど、アクア琵琶の大雨体験室を狙って来られる方が多くて、そのたびに「ちょっと故障中なんです」と言うのが心苦しいので、備品や設備を一度点検していただけると、すごくありがたいなと思っています。これは要望です。</li> <li>• 以上です。ありがとうございました。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 野村レンジャー、ありがとうございました。</li> <li>• 今、報告いただいた件について、委員の皆様から質問、ご意見をお伺いします。どなたからでも結構です。</li> <li>• はい、北井委員、どうぞ。</li> </ul>
	北井	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 最初の事務局からの報告でサポートボランティアの話があって、ボランティアさんで助かってますと書いていらっしゃったので人手があるのがよいのかなと思ってたんですけど、ボランティアさんが来はると、ボランティアさんにも対応が出るというか、最初に説明したり、こういうことをお願いしたりとか、もっと言うと、もしかしたらフォロー、フィードバックなどの対応が増えることもあるかもしれません。そっちの調整で大変にはなってないでしょうかと思いました。どうですか。新規レンジャーの末吉さんも協力してくださったりでお手伝いは増えているかなとは思いますが、主体としては負担・負荷はないですか。</li> </ul>

R 野村	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今のところ、大丈夫です。今まで来てくださった大学生の方は、皆さん、「何かすることないですか」とか、子どもたちに対して優しい目で、本当に親しみを持って接してくださっているの、大変助かっています。大学のほうでもボランティアの体験をなさいたいというようなご紹介があるみたいで、あさっての11月1日にも滋賀大の方と龍谷の方が3人来てくれる予定です。</li> </ul>
北井	<ul style="list-style-type: none"> <li>・じゃあ、結構前向きに関わる感じで手伝ってくれていらっしゃるよ。</li> </ul>
R 野村	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そうですね。</li> </ul>
中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほかにいかがでしょうか。はい、柴山委員、どうぞ。</li> </ul>
柴山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご説明ありがとうございます。</li> <li>・非常に多岐にわたる活動というところで、下半期でまたご報告があるのかもしれないですけども、琵琶湖河川事務所でこれから鹿跳溪谷の改修をしていこうかという段階になっているんですが、石調べというのをやるんだと思ってですね。どういった活動のポテンシャルがあるのかなと。カヌーをやっているのは知ってたんですけども、これは現地に行って調べるんですか。そういった活動もよくやられるんですか。需要があるのか、教えていただければと思うんですけど。</li> </ul>
R 野村	<ul style="list-style-type: none"> <li>・瀬田川はなかなか入れないじゃないですか。それで、ずっと行ったときに鹿跳のあの景観に魅了されて、ここら辺に住んでいる人たちは、住んでいるというか、大学生とかは、絶対そこを見たら——本当に溪谷で、琵琶湖を見ているのとは全く違う景色が広がる。そして、川の様子も分かるし、河川管理のことも勉強できるし、あと地層の古琵琶湖層がどうなっているとか、産業とのつながりも、あれで深堀りすると、すごく感じるものがありまして。あの河原の泥で陶器を焼いている人がいたり、拾って河原で焼く人もいたり、いろんな出会いが今までありますし、石もあそこは地質が全然違うんです。信楽川のほうとこっち側のほうでは全く違う地質になってくるので、そういったことも子どもたちと一緒に火打ち石で火花を飛ばしながら紹介して、「面白いね」と言ったり、石を積んでいくとか、いろいろ楽しいことができるんです。ぜひ来てください。</li> </ul>
柴山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それは溪谷の中でやる？ 下に下りてやるんですか。</li> </ul>
R 野村	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はい、そうです。河原に下りて。米かし石といいますか、ポットホールが美しいので。</li> </ul>
柴山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分かりました。</li> </ul>
中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・難しいけど、そこを早めにするとか。もうじき様子が変わるんですよ。もうじきって、いつ工事着工になるか分からんけど。</li> </ul>
柴山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そうですね。一気に進まないの、ゆっくりやっていく感じにはなるんですけど。</li> </ul>

中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なので、どういう進め方になるのかとか、今の勉強されてる話とうまくリンクさせれば理解が一層進むと思うし、そういう方面の仕掛けもまたあるといいかもしれませんね。</li> </ul>
柴山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そうですね。新しい気づきがありましたら、また報告します。</li> </ul>
中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・では、野村レンジャー、ありがとうございました。</li> </ul>
R野村	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございます。</li> </ul>
△中西	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そうしましたら、最後、末吉レンジャー、13ページからになります。</li> </ul>
△松岡	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それでは、13ページから末吉レンジャーの前段をご説明させていただきます。</li> <li>・末吉レンジャーにおかれては、大きく4つのテーマに沿った計画を立てられまして承認をいただいております。1つが、様々な行事に参加をされて、地域住民、または企業とつながり、意見を聞き出す。これは2つ分かれておりまして、地域のイベントに参加するということと、セミナーや公開授業に参加するというものです。2つ目が、自ら行事を開催して地域住民や企業とつながり、意見を聞き出すというもの。3つ目が瀬田川の魅力をデジタルマップに作成する、4つ目がSNSで瀬田川の魅力を発信するというものでございます。</li> <li>・まず「行事に参加して地域住民や企業とつながり意見を聞き出す」の1つ目、「地域のイベントに参加」というところでは、主にその下からの記載にあるものに参加をされております。中身としましては、河川レンジャーさんの活動への参加から参加者の方々と個別に交流をされたり、琵琶湖河川事務所さんから情報提供いただいたゼミナールへの参加といったところでございます。</li> <li>・2つ目が「自ら行事を開催し地域住民や企業とつながり意見を聞き出す」というところで、右側を見ていただきますと、まず「みんなでつくろう！AI×瀬田川デジタルマップ」という取組を8月に1回取り組まれております。今後もこれをシリーズとして計画をされていると聞いております。</li> <li>・3つ目、「瀬田川の魅力をデジタルマップに作成する」ということで、紙面を見ていただきますと、こういったグーグルマップを活用されて、各ポイントをクリックすると、末吉さんが自ら足で取材をされた写真や情報等をご覧いただけるというものを作成・公開をされております。皆様もQRコードから見ただけです。</li> <li>・4つ目、「SNSで瀬田川の魅力を発信する」というところは、このデジタルマップ作成とも関連が出てくるものではありませんが、現在、入手した情報を今度はインタグラムを使って情報発信をされている、継続中であるというところでございます。上半期におかれては、大きな節目として、4月、5月、7月にされております。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・以上でございます。</li> </ul>
	R 末吉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・末吉です。よろしくお願いします。</li> <li>・説明していただいた内容なんですけども、各イベントに参加させていただきました。また、滋賀大学さんの公開授業を受けさせていただきました。この目的は、情報の聞き出しと、交流というか、きっかけづくりだったんですけども、大学の授業でも河川事務所さんや河川財団さんの紹介もされておられましたし、瀬田川の水位の高いときがあったり、低いときがあったり、そういったいろんなことを教えてもらいました。</li> <li>・2番はA Iを活用して瀬田川の魅力を発信する勉強会ということで、イベントをさせてもらいまして、1回目の8月2日は参加者が2名でした。2回目を9月にしているんですけども、こちらは6名参加していただきまして、地元の赤尾の方が2名、あと4人は大津市在住の方でした。3回目を来月11月29日、4回目を1月末から2月上旬にマップのまとめという形で開催する予定をしております。</li> <li>・3番ですけども、SNSで瀬田川の魅力を発信する。これは今弱いんですけども、今後もうちょっと活動を増やしていきます。</li> <li>・4番のデジタルマップは、私のほうで一通りつくってみたんですけども、イベントのときに参加者の方に写真を撮ってアップしてもらって説明を書いてもらうという形もとっております。それで、意見交換会のときに防災マップとデジタルマップを生かせないかということがありまして、イベントのときに、防災マップ、洪水が来たときの水平移動や垂直避難をA Iでつくった想像の画像でご説明させてもらって、それを伝えてマップ作成をしてもらって参加者の意見を聞き出すという形で取り組んでいます。</li> <li>・成果ですけども、デジタルマップの運用で可視化する一步が踏み出せまして、防災マップのほうに活用していく方向性が確認できました。</li> <li>・課題ですけども、まだ集客が不足していますので、簡単に分かりやすく伝えるのと、防災や環境の知識を住民や子どもたちに伝えていく仕組みをつくっていきたいと思っております。</li> <li>・私からは以上になります。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・末吉レンジャー、ありがとうございました。</li> <li>・では、委員の皆様から今報告いただいた件に関して質問やご意見等ありましたら伺います。</li> <li>・はい、佐々木委員、どうぞ。</li> </ul>
	佐々木	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まず1年目ということなので情報収集と人脈づくりかなとは思っているんですけど、細かいところを伺って恐縮なんですけど、インスタグラムのアカウントのレンジャーのスペリングが違うんですけど、これは何か狙ってやっていたらっしゃるのか。「r a n」がレンジャーのスペルなんです</li> </ul>

	が、「ren」になっているので。実際のアカウントも「ren」なんですよ。それはまたご確認いただけたらと思います。
R末吉	・はい。それは確認して直しておきます。
佐々木	・それで、SNSを組み合わせるのであれば、例えば「#瀬田川」で見ても結構な数がありますし、GPS情報がついた写真も多く投稿されていると思うんですけど、そういうオンライン上の情報を活用されたり、オンライン上のコミュニティーで何かされるということは今後考えていらっしゃるのかなど。そのSNSの活用の仕方ですね。それについてお考えをお聞かせいただければと思います。よろしく願いいたします。
R末吉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SNSは集客目的で、イベント参加を増やしていきたいと思ったんですけど、私レベルのインスタグラムでは集客にはならないので、一応見てもらえる程度という形でやっています。口コミや、今度大津市さんのほうに「イベントをやっていますよ」というものを置いてもらえないかということで行ってみたいと思っています。</li> <li>・それで、SNSをやってる方よりかはやってない方のほうがターゲットになるんじゃないかなどやっているうちに思ってきました、そちらのほうもちょっと動いているところです。</li> </ul>
佐々木	・SNSがメインターゲットでないのであれば、確かにそういった話で全然構わないんですけど、もしSNSを主軸にするんだったら、SNSなりのやり方もあるかなどは思ったので。
R末吉	・そうですね。毎日投稿とか、最低3日置きに投稿しないと集客にならないので、ちょっと難しいなと思っています。
佐々木	・なるほど。分かりました。ありがとうございました。
中谷	・ほかにいかがでしょうか。はい、平山委員、どうぞ。
平山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございます。</li> <li>・2番の活動で、住民と企業のつながり、意見を聞き出すためにAI×デジタルマップの催しをされたということだと思うんですけど、具体的にどういうつながりやどういう意見を聞き出すことを期待されていたのか教えてください。</li> <li>・もう一つは、3つ目のデジタルマップですけども、これの主な対象や期待する使われ方、どういう人にどういうふうに使ってほしいのかというのを教えていただけますか。</li> </ul>
R末吉	・意見を聞き出すのほうなんですけども、瀬田川をどういうふうにしてほしいとか、どうなったほうがいいのかというのを聞けたらなと思ってたんですが、まだそこまで具体的な意見が聞き取れてないところです。今は接触の、交流といいますか、参加してもらうところがメインになってまして、それがまだ私のほうが聞き取れてないという形になってます。
平山	・例えば、どういう企業、どういう住民の方にどういうツールで何を聞こ

		うとされているのか。これからの展開・展望でいいんですけども、どういう想定ですか。
R末吉		・瀬田川の歴史とといいますか、過去のことを調べて思い出してもらって、「未来はこうしたい」という形を聞き出したいなと思ってます。
平山		・そうすると、高齢の方への聞き取りも想定されている？
R末吉		・そうですね。逆に小学生とかがあまりターゲットにならないので、親子連れで来てもらって一緒に参加してもらおうという形はとっているんですけども、どうしても成人男性とかお年寄りになってきます。
平山		・コメントなんですけど、まずは具体的にターゲットを決めて、「こういう人の意見を取るためにどういう方法がいいのか」というツールを考えるのも一つかなと思いました。 ・もう一つのマップのほうはいかがですか。対象と使われ方。
R末吉		・マップのほうも、自分の瀬田川をつくって、それを広めていってもらおうという形で考えてます。
平山		・マイ瀬田川マップみたいな。
R末吉		・はい、マイ瀬田川マップです。
平山		・他者に使われるというのではなくて、自分の中のものを表現してもらうためのマップという感じですか。
R末吉		・そうですね。住民さんのほうはそういった形で、企業さんにすると、外に出ていくといいますか、普通のグーグルマップにして企業を宣伝するという形になると思うので、それはまた違う使い方と思ってます。 ・それで、企業さんのほうが今回全くつながってませんので、そちらも今後つながっていただけたらなと思ってます。
平山		・分かりました。これからつながりをつくっていかれると思うんですけども、対象が少しぼんやりしていて進まないのであれば、先ほど申し上げたように、ちょっと具体的にイメージして、どちらも取り組まれるといいかなと思いました。コメントです。
R末吉		・ありがとうございます。
佐々木		・1点だけ。瀬田川と地域住民の関わり方ということであると、以前いらっしやった上田レンジャーや北村レンジャーが情報蓄積したものをまとめていらっしやるんですね。なので、ぜひそれはご覧いただければなと思いました。補足です。
R末吉		・ありがとうございます。
中谷		・末吉さん、ありがとうございました。出た意見を参考にして今後の取組にまた生かしていただければと思います。
R末吉		・ありがとうございました。
中谷		・では、一通り各レンジャーさんから報告をいただきましたが、全体を通

		<p>して委員の皆様から「これはどうや」みたいなことがありましたらお伺いしますが、いかがでしょうか。はい、どうぞ。</p>
	佐々木	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本当に真ん中の情報がなくて来ているので背景の情報としてよく分からなかったのが、野洲川のMIZBEステーションであつたりとか、鹿跳溪谷の——これは拡幅かしゅんせつかをするんですかね。その辺の情報も提供いただけると、もう少し立体的に報告書が読めるので、私、その辺をあんまり知らなかったので、追加の情報提供をよろしくお願いします。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そうですね。その辺は、今もお話にあつたとおり、事務所で取り組まれている部分——多分、野洲川ではほかにも事業がいっぱいあつたりするので、「今こういうことをやってますよ」ということも適宜情報提供を委員さんにしていただければいいかなと思いますし、その点、よろしくお願いします。</li> <li>・先ほどちょっと申し上げたように、鹿跳を触るとか、その辺は地元にとってもかなりインパクトのあることでもあるし、昔から、琵琶湖総合開発以来、関連する仕事が残ってたりするんやけど、「今はもう落ち着いてるのに、さらに何や？」というようなこともあつたりするので、何でそれが必要かというのをまたみんなに理解してもらうためにも機会があるたびに情報をいただくと、またレンジャー活動の中でもそういう話題にヒットするところがあつたりすると思います。今あつた話は大事だと思いますので、ぜひよろしくお願いします。</li> <li>・ほかにいかがですか。</li> </ul>
	北井	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回報告いただいた中には研修を行われたことも入っていて、質疑の概要を書いてくださったのを興味深く拝見していました。活動年数が浅いレンジャーさんもおられますけど、長くなっている方は、河川事務所さんからの「ここはこういう課題があつて」みたいなコメントに対して、いろんなアイデアや地域とのつなぎ方などの手法をお答えされているのがすごく読み取れました。どうやって河川レンジャーが住民と行政の間に立って、どういうふうな役割や能力を発揮していくかというのは、構想ではあつたけど、具体的に「これだ」と言える完成形みたいな——まあ、完成形はないかもしれないですけど、「こういうもの」というのはっきりしたものというのは皆さんそれぞれに模索されながらやっているのではないかなと思ってたんです。そういう意味では、かなりいろんなことを事務所さんの課題も共有しながら取り組めるような一端になってきているんだなと思いながら拝見しました。</li> <li>・また、それぞれのところで工夫やノウハウを持っていらっしゃるのも中間報告からよく分かるので、すごいことだなと。年数を積んでいる方はもちろん高度な取り組みになってきていますが、全体的に進化を感じました。</li> </ul>

	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そうですね。うまくまとめていただいております。</li> <li>・では、中間報告のパートはこれまでにさせていただきます。</li> </ul>
--	----	--

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, △印：事務局, ○印：一般傍聴者)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
3. 審議	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次は審議事項になりますが、資料－3についての説明をお願いします。</li> </ul>
(1) 河川レンジャー制度運営委員会規約の改正について	△中西	<ul style="list-style-type: none"> <li>・審議事項は2つありますが、いずれも資料－3に載せておりますので、ご覧ください。</li> <li>・1つ目の話題が、制度運営委員会の規約についてです。参考資料－2が現在の規約でして、こちらもお手元に置いていただければと思います。</li> <li>・まず、委員会の規約の改正についてです。これまで委員の任期は1年更新でありまして、毎年、委員長・副委員長を年度当初の委員会で互選により決めていただいております。ところが、昨年度、第72回の委員会で委員の任期を2年とさせていただきました。今年2年目になっておられますが、委員長・副委員長の任期をはっきり決めたものがございませんでしたので、任期の間、職務に就いていただくということをご提案いたします。</li> <li>・具体的には、規約の第7条に「(委員長及び副委員長)」という言及がございます。今までは4項まであったんですが、これに第5項をつけまして「委員長および副委員長の任期は委員の任期に準じ2年とする。」という文言を追加させていただくことかどうかというご提案です。</li> <li>・続けての話題でございますが、河川レンジャー活動要領の改正ということで、活動要領は参考資料－3としてお配りしておりますので、併せて見ていただければと思います。</li> <li>・こちらの中に河川レンジャーマネージャーの言及がございます。活動要領の中では、支援室職員の中から運営委員会がマネージャーを任命するというふうにしております。</li> <li>・それで、本制度の運営ですけれども、運営当初は様々な事柄をこの制度運営委員会に諮りながら決めていきましたが、ここ最近はレンジャーマネージャーの役割も明確化しているということ、それからレンジャーの支援体制がある程度確立している中で、この委員会の中で特にマネージャーの選出について議論せずに進められているところがございます。この現状を鑑みまして、この文章がずっとあるのはどうかなというところもありまして削除することを提案させていただきたいと思っております。</li> <li>・具体的には、第8条に「(活動支援)」ということが書いてございます。ここに、マネージャーの任命は運営委員会がして、「第5項の任務が適正に行われているかを審査する。」となっております。第5項の任務というのは、参考資料の2ページ目の第5項のところに8項目あります。ミー</li> </ul>
(2) 琵琶湖河川レンジャー活動要領の改正について		

		<p>ティングを開くとかミーティングの議事録を作成するなど、いろいろ普段の支援の事々が任務として書いてございます。ということで、この辺りの審査も含めて今回削除するというご提案です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・また、任命がなければその任期というところもないのかなということで、こちらも削除してはいかがでしょうかというご提案になっております。</li> <li>・簡単に説明いたしましたが、以上です。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今、規約の改正と活動要領の改正について説明いただきました。</li> <li>・まず規約のほうですけど、先ほども話があったとおり、委員は任期2年間ということで進んでますので、その中から選ばれる委員長・副委員長の任期も連動させておこうということですね。これはそのようにして問題はないというふうに思いますし、特異な例が出てきたら、それはその都度また考えればいいたろうと。</li> <li>・では、第7条は5番目の文章を追加するということですね。</li> </ul>
	加藤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「準じ」と言うんですかね。</li> </ul>
	佐々木	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そこは引っかかりますよね。</li> </ul>
	加藤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ねえ。もう普通に「2年」でいいのかなと。「その理由は？」と言われたら「準じてます」と言うだけの話なので、規約上「準じ」というのは何かちょっと引っかかる感じが。</li> </ul>
	佐々木	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その委員の任期に連動するように読めちゃうので、何かよく分からないという気がします。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・では、「任期は2年とする」と。</li> </ul>
	佐々木	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これは任命から2年ということですよ。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・うん、そうですね。では、そのようにしてよろしいですか。ちょっと引っかかってる？</li> </ul>
	北井	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日付の設定まで考えるとどうなるでしょう。いつも4月1日を委嘱日として委嘱状を発行されるから「2年とする」で3月末で終わるのは分かるんですけど、委員会で任命されるので。委員会日は毎年流動的で、任命日から2年という、その日付で刻まれてしまう気がします。それはどんな感じですか。</li> </ul>
	佐々木	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が事務局をやったときになぜ2年とか1年にしてたかという、何か月というところまで書くと、ややこしくなるので、おおむね翌年の初回の委員会まで回すために、委員任期と連動させるのではなくて、任命日から——だから、僕、さっき、任命日と言ったじゃないですか。任命日から1年というとり方をしたのは、それが理由です。そうすると、多分、初回の委員会までは任期がもつだろうという考え方ですね。</li> </ul>
	北井	<ul style="list-style-type: none"> <li>・細かく考えると細かくなってくるので。すいません。</li> <li>・初回の委員会ときは解任されている状態で、仮で進めているんですよ</li> </ul>

	ね。「前年の委員長が進行します」として進めているので。
中谷	・うん、ずっとそれやったね。
佐々木	・ああ、そうなんですか。
北井	・そうなんです。毎回そんな感じです。だから、初回委員会のときは、委員長、副委員長は互選されるまでは存在しないんです。
△中西	・今年度に限っては、2年という任期の中だったので、継続していただいていたんですけど。
北井	・そうですね。だから、問題なかったんですけど。 ・ということで、委嘱期間が終わっても任命——まあ、それは空席になるというだけやから、いいのかな。すいません。その辺のニュアンスだけ整理されてたらいいと思います。細かいことが気になっているわけではなくて、運用上ややこしくなる瞬間があると困るかなと思ったので、確認したかっただけです。
中谷	・では、もう「 <u>準じ</u> 」を取って「2年」ということにさせてもらいましょうか。 ・では、活動支援の第8条です。資料-3にあるとおり、3と4を削除ということなんですが、運営委員会としては、事実上、任命しということもしてなかったですね、最近は。
△中西	・一応、委員の名簿欄にレンジャーマネージャーというのは書いてはいて、そこをあえて審議対象にはしてなかったと。
中谷	・はい。ということではなかったし、あと関連して1年というのもないと。ここは、このとおり、削除でよろしいですか。
佐々木	・1個だけ質問させてください。「現在では河川レンジャーマネージャーの役割が明確化し、」と書いてあるんですけど、明確になっているところというのはどこに書いてあるんですか。
△中西	・参考資料-3の活動要領の2ページ目の下の段、第8条の5項の(1)から(8)までがマネージャーの任務です。各種ミーティングの日程調整ですとか、そういったところを役割として認識してやっていると。
佐々木	・だから、この(1)から(8)というのは適宜改正されて今の形になっているから、それをもって明確化したという理解でよろしいですか。僕はちょっと過程が分からないので。
△中西	・そうです。
佐々木	・はい、分かりました。
中谷	・では、今の資料にあるとおり、 <u>3と4の赤の部分</u> は抹消ということで。
北井	・5項が3項に。
中谷	・繰上げですね。

	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございます。</li> <li>・では、審議事項は、先ほど来あったとおり、2点改めさせていただきます。</li> </ul>
--	----	---

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, O印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
4. その他 (1) 河川レンジャーの審査について	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・では、次、「その他」へ行ってよろしいですか。</li> </ul>
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はい。では、「その他」の河川レンジャーの審査について。</li> </ul>
	△成宮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・では、事務局からご説明させていただきます。</li> <li>・資料-1の2ページの「2.」のところに簡単に書かせていただいているんですけども、先日、「10月17日時点で」と書いてますけど、正確に言いますと、10月16日に1名の方から河川レンジャーへの応募がございました。本日この委員会で審査していただく準備ができていないのですが、規約と活動要領に基づきまして、任命の審査を本委員会でお願ひしなければなりません。</li> <li>・定例でいきますと、この後の委員会が2月となりますので、少し間が空き過ぎてしまうのではないかと事務局としては思っております、できたら2月までの間に新規レンジャーを審議いただく委員会を別途設けさせていただけないかと思っております。委員の皆様方のご都合もあるかと思しますので、後日その辺も含めてご相談させていただけたらと思っております。よろしくお願いいたします。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・せっかく応募いただいているのであれば、できるだけ早く活動に入ってもらえるようにするのがいいかと思えます。とはいえ、委員さんのスケジュールの件もありますし、また、今日のように一堂に会してというと、日程調整もなかなか大変かも知れないし、その辺は弾力的に、ウェブでやるとか資料をあらかじめ見せといてもらうとか、方法は考えていただいて、そのように進めていただければと思いますが、委員の皆さん、それでよろしいですかね。</li> <li>・はい、ありがとうございます。では、事務局、そのようにお願いします。</li> </ul>
	△成宮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご負担をおかけしますが、よろしくお願いいたします。</li> </ul>

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, △印：事務局, O印：一般傍聴者)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
4. その他 (2) 傍聴者からのご意見	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・では、「その他」のもう一つ。傍聴者の方においでいただいているようですが、ご発言していただけますか。</li> </ul>
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特にないということです。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございます。</li> <li>・では、一通り議事を進めさせていただきましたので、後は事務局へお返</li> </ul>

		しします。
--	--	-------

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, △印：事務局, ○印：一般傍聴者)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
5. 閉会	△中西	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中谷委員長、本日のご進行、ありがとうございました。</li> <li>・これをもちまして、第76回の河川レンジャー制度運営委員会を終了させていただきます。長時間ありがとうございました。</li> </ul>